

ノイエスだより

ノイエス朝日
(朝日印刷工業株式会社)群馬県前橋市元総社町73-5
TEL 027-255-3434
FAX 027-255-3435
<https://www.neues-asahi.jp>Communication House
NEUES
ASAHI

新年度になり一カ月になります。そして新緑の美しい季節になり雑草の中に名も知らぬ花々が咲いています。

ノイエス朝日も新しいスタッフを二人迎え、ギャラリーの仕事のひとつを教えたり、逆に若い新人にスマホやパソコンについて教えてもらったりとノイエス(新しい風という意味)が吹いています。

コロナやインフルエンザの感染対策をしつつ、展示会も通常通りに開催できるように、自社企画の合間をぬって県内で実施されている展示会にかけ、多くの作家との会話に刺激を受けています。

先日、県立図書館で以前勤めていた会社の同僚に出会いました。

二十数年前に一緒に働いていたにも関わらず数年前の事のような会話に時間の流れとは何なのかと、つい図書館の棚から時間に関する数冊の本を抜き取り読み始めました。「〈現在〉という謎」そして「老いの正解」という興味深い内容です。「老いの正解」には副題がついていて「世界の哲学者が悩んできた」老いの正解。ギリシャ哲学者からサルトルやフーコーそしてAIにいたるまで「時間」についてのあらゆる老後観が書かれています。二千年前のローマ帝国の政治家、哲学者、詩人でもあるセネカが老いの讃歌をこんなふうにしたとか。

田舎に行ったおかげで、自分が年老いたことがどこへ目を向けても明らかになった。私たちは老年をいたわって愛することです。老年は付き合い方さえわかれば、楽しみに満ちているのだから。果実がもつとも心を喜ばすのはその季節を過ぎ去る頃、若さがもつとも美しいのはそれが終わる頃。酒に溺れる人々の楽しみは最後の一口。それは飲み手を飲み込んで、酔いに仕上げの手を加える。(「老い」の正解より)

老いを自然なものとして受け入れた言葉のようです。

「今」を生きているという後先をあまり考えずに毎日を生活していると二千年も前の言葉が空から降ってくるようです。

その本の中にオーストリアのイリイチという哲学者が「みんなが生徒になり、同時に先生になる時代」そんな提唱もあり、今のネット社会にも一部導入されているようです。

ノイエスにも春とともに新しい風が吹き、新人から新しいことを教えてもらう楽しみも増えて「今」という時間を来廊される皆様とともに共有していきたいと思えます。

(武藤)

ノイエス朝日〈展覧会〉のご案内

平出浮足豊 彫刻展

47th

〈企画〉

会期 五月十日(土)～十八日(日)

午前十時～午後五時

会場 ノイエス朝日 スペース1・2

今回四一回目の個展。一九七六年(二四歳)今は無き「ギャラリーふかまち」(高崎市)に毎年個展を一〇回願い、東京青山他。ノイエス朝日は六度目。作品と制作は、材と社会に個の、触媒にもならずだが。

恵まれたことをいえば、父(日中戦争ビルマ戦線)が我一三歳に五〇歳逝去。

それで反戦の、高校で我処分いくつかの中、同級Y君の抗議焼身自殺など。から、半世紀以上経ち。

それらはすでに暗陰ではなく、音楽も含めて言葉に物質の具体をもつて、私の制作の中に今は、糧恵である。

もう昔になる山宴遊が止む頃、山女岩魚溪の水生昆虫激変を目の当たりにあつたことを思いおこす。

今外アトリエ制作の中、藪庭にその変化を感じることも。ほかからにありたいが。

まま、手を思考に、足は水面を突き破るに浮く。

平出浮足豊



踏んでいるか舞って踊るか

関口将夫展

〈企画〉

ふりむいた時間

会期 五月二十四日(土)～六月一日(日)

午前十時～午後五時

会場 ノイエス朝日 スペース1・2

ふりむいた時間

関口将夫

ことばで表現していると、つい複雑な状態でも、すべて伝えようと努力してしまうが、絵だとはじめから限度があり、感じてもらうことを主として。たとえば「あそこになぜ犬がいるのか」(窓が開いているそこに意味があるのか)唐突に問いが追いかけてくるのが楽しい。そして、私が描いているのは「時間」なのだろう。私が触れた時間という記憶なのだろう。私は答えのない問いがあふれている絵が好きだ。

今回の個展では、平面作品二十一点。立体作品十一点を展示する予定だ。

感想をいただければ、こんな幸せはない。

小林裕児の絵画講座

座学と実技、絵画のしくみを学び創造の楽しみを探る

第3回

日時 5月21日(水) 午後一時～四時

会場 ノイエス朝日 一階

会費 単数会のみ 一回四〇〇円

*講座内容につきましては、ノイエスに詳細パンフレットがあります。